

2022年4月教会便り 砂川～美唄

主任司祭 ナルチゾ神父



4月は、さまざまなお花が咲き乱れ、お花を楽しむ絶好の時期ですが砂川ではまだ雪が溶けていないのですが皆様はお元気でお過ごしでしょうか。教会では4月10日 聖週間になります。聖週間は教会にとって特別なときです。聖週間の典礼には、イエスの受難、死、復活にすべてが集中します。すべての動き(活動)は沈黙し、このときは典礼の動きが優先します。教会全体が、イエスの受難、死復活に全神経を集中しています。典礼は、歴史の出来事、あの救いの出来事を神秘的に再現していきます。2000年前の出来事の単なる反復ではありません。あの一回限りの決定的出来事を毎年記念することによって絶えず新にしていくのです。その中で私たちは2000年前の出来事救いのドラマに触れていくのです。そして、聖週間の典礼をとおして、私たちはこのドラマを自分の中にもう一度確かめていくのです。ですから傍観者としての姿勢は許されません。聖書朗読もイエスの受難物語が読まれます。イエスの受難が初代教会にとって、大切な意義をもっていたことがわかるのは、すべての福音書(マタイ・マルコ・ルカ・ヨハネ)がそれを伝えているからです。それぞれの福音史家たちは、少しずつニュアンスをかえて伝えています。この受難の物語をとおして教会は、苦しみ、十字架の道をたどるイエスの神秘を黙想し、祈るようと招きます。典礼における聖書朗読も、イエスの受難物語が読まれます。その理由は、受難と死をとおって復活の栄光へと過ぎ越していく、キリストの生涯のもっとも中心的な出来事だからです。キリスト受難の出来事がいきいきと再現されるように伝統的にキリスト、語り手、群衆などと役割を分担して読まれてきました。ことに典礼に参加している会衆は、群衆の声を受け持っています。ペトロの心に、群衆の心に、女性の心に…そして、イエスの心になってみましょう。そうして、ドラマの中の出来事をたどることにより、キリストの神秘に深く触れていくことができるのではないのでしょうか。受難のドラマが罪の神秘の啓示であり、典礼の一つのモチーフが罪の神秘であるなら、愛の神秘の啓示は、もう一つのテーマでしょう。聖週間の典礼の深まりと同時に、このときを、私たちは、教会とキリスト者としてのいのちの根元をもう一度確かめ、新たにするとときとしましょう。



4月の主な典礼・ミサ時刻

日	曜	典礼暦	砂川	美唄
3	日	四旬節第5主日 当教会出身聖職者・修道者のために祈る日 P11 キリストの受難をしのぶ	9:00ミサ 先読:高塚 第1:西川 第2:岡本 典礼聖歌: 三上夫妻 オルガン:多田	11:00
10	日	受難の主日(枝の主日)	9:00ミサ 先読:多田 第1:本田 第2:安藤 典礼聖歌: 高塚/間野 オルガン:野呂	11:00
14	木	聖木曜日(主の晩さん)	19:00	
15	金	聖金曜日(主の受難)大斉・小斉	19:00	
16	土	聖土曜日(復活徹夜祭)	19:00	
17	日	復活の主日 アレルヤの祈り開始 P13 キリストの復活を祝う	9:00ミサ 先読:高塚 第1:三上 第2:古野 典礼聖歌: 野呂/安藤 オルガン:多田	11:00
24	日	復活節第2主日 P14 キリストの復活をたたえる	9:00ミサ 先読:多田 第1:間野 第2:室井 典礼聖歌: 古野/間野 オルガン:野呂	11:00

◆平日のミサ ○砂川教会:月曜日～金曜日 6:30、土曜日10:00 ○美唄教会: 金曜日10:30

今月の霊名記念日の方…おめでとうございます(敬称略)

◆砂川教会

16日 聖ベルナデッタ 安藤静江
29日 聖カタリナ 尾崎康子、古野聖奈、多比良桂子

◆美唄教会

16日 聖ベルナデッタ 大城繁子、佐藤順子
世羅征子

◇砂川教会 お知らせ

- ・8日(金) 午後7:00～ ロザリオ会を信徒会室にて。
- ・17日(日) ミサ後 簡素な ご復活祝いを予定します。
- ・24日(日) 信徒会 総会を予定します。
- ・毎週水曜日 10:00～ 聖書に親しむ会を実施しています。
- ・四旬節愛の期間中 四旬節愛の献金、15日聖地の為の献金

花当番	
16日(土)	多比良
30日(土)	高塚

子供たち

高塚紀子



私には5人の子供がいます。男3人、女2人。一番上は54歳下は40歳です。今、部屋の壁に飾ってある幼かった子供たちの写真を見ていると、過ぎ去った日々が本当に夢のようです。全員健康で、子供の世話をしてくれるお手伝いさんに恵まれ勤務医を続けることができました。一番下の子の場合、病院から帰るとまず着替えをして子供を背負い夕飯の支度をしました。最近その子に「お母さん、週に3回は肉と野菜の炒め物を作っていたよね」と言われました。毎晩、子供が私の両脇に寝ていたので、1年に1～2回全国各地で開催される皮膚科学会に出席するのは、子供から解放される楽しみな時でした。けれども実際に出かけると早くうちに帰りたくなったものです。毎年夏休みを1週間とることができ、浜益で民宿し海水浴、大雪山方面にドライブ、それから札幌に映画を見に行くのがおきまりのコースでした。昔は子供5人と日曜日のミサにあずかりました。下の2人は洗礼を受けています。ミサ中小さい子が騒ぎ、少ししか年の離れていない上の子が、親の私の代わりに面倒をみてくれたのも懐かしい。あるとき寝る前、布団の上で私が「さあ、お祈りするよ」と号令をかけると、一番上の子が「主よ、あわれみたまえ」と大声で言ったのは忘れられません。また新しく家を建て、私のうちで初めてロザリオ会をしたとき、当時は10人以上集まったのですが、小学2年だった娘が「お母さん、みんなが集まってうちでお祈りしてくれてよかったねえ」と言ったことも。僕もおおきくなったら、お母さんになりたいの、「わたしはお嫁に行かず、ずっとお母さんと一緒に暮らす」、中学生になっても「お母さん、お母さん、僕いつまでもお母さんと呼び続けるのかもしれない」などと言っていた子供たち。神様は生まれてくる子供たちの胸に母へのあこがれ、思慕の念を植えたに違いありません。願わくは、子供たちがこの世にあっては神様の祝福の中を歩み、最後に神様の御許に帰ることができますように。

